

オープンハウスアンケート調査結果について

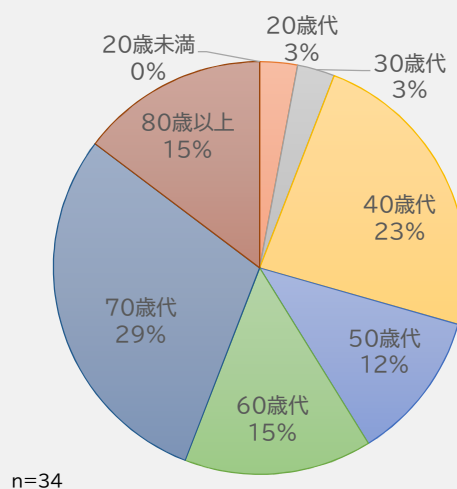
富田地区まちづくり基本構想の策定にあたり、これまでの検討内容について、「オープンハウス（パネル展示）」を実施し、来場者に対してアンケートを実施しました。令和4年1月22日（土）～29日（土）の期間に計6回にわたって、富田ふれあい文化センター、富田公民館、赤大路コミュニティセンターの3施設で行い、来場者数は55名、うちアンケート回答数は34件となりました。アンケート結果を以下に示します。（「n」は回答数を示す）

1 会場別来場者数

回	1	2	3	4	5	6	
日時	1月22日（土） 14～17時	1月25日（火） 14～17時	1月26日（水） 14～17時	1月27日（木） 14～17時	1月29日（土） 10～12時	1月29日（土） 14～17時	計
場所	富田ふれあい文化センター	富田ふれあい文化センター	赤大路コミュニティセンター	富田公民館	富田公民館	赤大路コミュニティセンター	
来場者数	13名	11名	4名	9名	5名	13名	55名
うちアンケート回答者数							34名

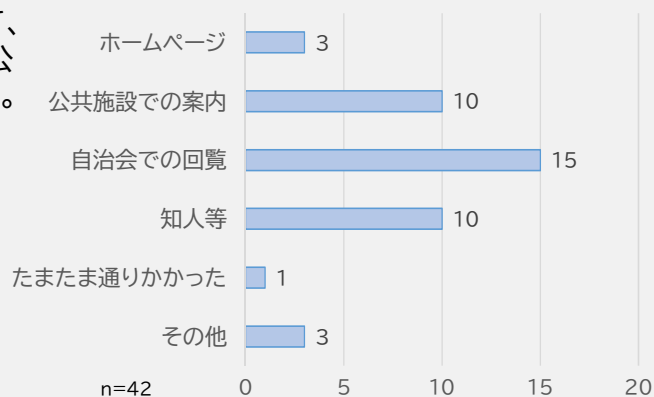
2 回答者の年齢

アンケート回答者の年齢層は、70歳代が最も多く29%でした。その次に、40歳代が23%、60歳代及び80歳以上が15.0%、50歳代が12.0%と続きます。20歳未満の回答者はいませんでした。



3 開催を知ったきっかけ

オープンハウスの開催を知ったきっかけについて、「自治会での回覧」が15件と最も多く、その次に「公共施設での案内」及び「知人等」が10件と続きます。



4 新たな公共施設について、どのような場があれば、「行きたい！使いたい！」と思いますか。

分類	主な意見(抜粋)
① 多世代交流の場	子育て世帯や若者・大学生が集える場 独身の若い世代やひとり暮らしの人のための場所
② 子どもの遊べる場	子どもたちが走り回って安全で遊べる屋外広場 子どもたちがのびのびと遊べるプレイルームや屋外広場
③ 相談できる場	困り事や悩みを相談できる場 健康や人権のことについて相談できる場
④ 発表できる場	音楽(太鼓等)や文化活動発表のための舞台 文化・芸術・スポーツの発表の場
⑤ 障がい者も利用しやすい場	障がいのある方にも使いやすい所 車いす等で移動できる十分なスペースがある施設
⑥ 魅力発信の場	富田の魅力を発信する展示スペース 地域観光の発信施設
⑦ 飲食のできる場	お茶したり、食事も出来たらいい 若者が集えるカフェ
⑧ 遊歩道	小さい子どもや高齢の方なども一緒に散歩ができる遊歩道 夜でも歩けるよう街灯の多く設置されたウォーキング道
⑨ その他	オンラインWEB会議も可能なWiFi環境 様々な用途で使える多目的室 自習室といった個人利用の空間 誰でも出来る運動の場 など

5 富田地区まちづくり基本構想について、ご意見等をお聞かせください。

- ① 全国のモデル地区となるよう、行政と市民が一体となり、創意工夫したまちづくりを！
- ② JR/阪急京都線の開かずの踏切、狭隘なJRガード下解消等、「富田地区まちづくりの大きな課題」として「まちの安全・交通環境」についても言及をお願いします。
- ③ 構想については、子どもから高齢者までが安全安心を前提にして楽しく集うことができる環境の施設だけでなく、その周辺にも同様な環境づくりを望みます。
- ④ なぜ「再構築」が必要なのかを明確にして欲しい。一つ一つの施設が、改修も含めればどれほど使えるのかの現状を示して欲しい。
- ⑤ 西部地域保健センターは、残してほしい。富田から安満まで乳児検診に出かけたら、遠すぎるし、時間もかかるし、仕事も一日休まねばならないし、負担が多すぎる。
- ⑥ 「中長期的に複合化等について検討」とされている赤大路コミュニティセンターについてはコミセンが無くなるのか？との不安が高まっています。住民全体への説明会を開いて下さい。
- ⑦ 富田地区まちづくり拠点となるよう公園との一体化等周辺敷地との整合性を反映したものでしていただきたい。
- ⑧ 誰もが居場所として日常的に利用できる場所になる様に、それぞれの意見を丁寧に扱って、話し合っていく事ができたら良いと思います。
- ⑨ 公共施設の複合化を目指すのは理解しても、まず身近な存在であることが一番。

など

※ 主な意見を抜粋しており、文字数等の関係上、一部改変しています。